

## 10月のことば

## 教え④ ～宗教

(「いかに生きべきか」を考える時の教えとは)

菊花きっかに想う。

人に教おそえを示す。これが文字の如く「宗教」。  
いずれも宗教は、親の死や先祖崇拜すうはいや自然への畏おそれから始まり「そんな時はこうゆう考え方をして行動するのだ。」という教えに至る。

そして、教えの中で2000年以上、内容が変わらないものを「けい(きょう)経」と言う。

日本にそもそもあった経以上の古い教え、それは日本神話。  
ここに登場してくる神々の行動は、優しく人生を教示する。

日本神話の特徴は解説書たる教義は存在せず、話しを知っている日本人なら誰でもその人の感性で語っても良く、又、日本に入ってくる他の宗教に対し攻撃するのではなく、一緒やわに和らいでいくという底知れぬ包容力を持っている。

それで日本に、中国の経や仏教の教えが流入するも、和らいでいく。  
例えば、

①戦前まで日本の普通の家庭では家に神棚と仏間があり、双方に手を合わせていた。仏教化した日本の神々が、権現とか明神と呼ばれるようになる。(仏教神道)

②現在の「南無阿弥陀仏なむあみだぶつ」や「南無妙法蓮華経なむみょうほうれんげきょう」は、鎌倉時代(約800年前)の仏家達が、日本の古い教えや中国に伝わる経を勉強し、文字の読めない大衆に教えを簡略化して、「これを繰り返し言っていると救われる。」とあって広がった。

今は誰でも字が読めて、しかもインターネット・スマートフォンという情報の時代。  
しかし、「いかに生きべきか。」という教えはなし。よって、人間の真理が問われる場面に遭遇した時、念仏を唱える事ぐらいしか考え及ばず…。

故に我われは、「日本人の心の土台となる教えは何か」と考えて次の提案をする。

(大人へ)

- ①日本神話を感性で読み、語り合うこと。
- ②四書五経等(2000年以上前の経)を、簡記本でもいいから読んで実践すること。

(子どもへ)

「どうぞ」「いいよ」「ありがとう」を、誰とでも和やわらいで行なえる人にすること。

大きく和らげる国が「大和やまと」の語源。  
世界で最も崇高すうこうな国也。